

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	港 区
学 校 名	池島小学校
学校長名	小山勝一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 12 名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

大阪市の結果と比較すると、国語－16、算数－27ポイント下回っている。正答数半分以下の児童が58%と正常分布が大きく左に偏っている。算数でも同じ傾向が見られる。愛着に課題の児童が多く在籍する本校では、数年にわたり指導者が、日々肯定的な声掛けに努め、さらに児童の「がんばり続ける力」「あきらめずに取り組む力」等の非認知面での育てに重きを置きながら教育に取り組んでいる。しかし、設問17にあるように帰宅後の学習時間が多いとは言えないこと、読書指導に力をいれてきたものの設問24「読書は好き」の回答が25%と学びの時間が不足しているのではないかという新たな課題が見えている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

知識及び技能の「情報の扱い方に関する事項」は全国との差が小さい。思考力・判断力・表現力等の「読むこと」に関する問題も正答率が高い。これは、ここ数年説明的な文章に関する研究を進めてきた成果であるといえる。第1ブロックで取り組んでいる漢字検定への学習の成果も少しずつ出ている。しかし、記述式の問題の正答率が低く、自分の考えを文章で表す力は十分についていないといえる。

〔算数〕

算数は全国平均を下回っているが、デジタルドリルやブロック予算で購入した学習ドリルによる日々の学習の成果は少しずつ表れている。知識・技能面での正答率が全国に近くなっていることからもうかがえる。しかし、思考力・判断力を問われる問題に対する文章での説明が十分にできないようで、正答率が低い。

質問紙調査より

学習者用端末が導入されてから授業に積極的に活用してきた成果として、設問30にみられるように9割の児童はICT機器は学習に役立つものと考えている。プログラミングやデジタルドリル、スライド作成などが日常の授業で十分に行われている成果といえる。また、設問33、36に見られるように自分の考えを作り話し合う活動に意欲を見せている児童が多いことも数年間の教育の成果として出ているといえる。また、「自分にはよいところがあると思う」82%、「人の役に立つ人間になりたい」92%と自己肯定感、自己有用感を育てるための非認知面での教育の成果が定着している証拠といえる。さらに「いじめはどんな理由があってもいけない」100%と確実な心の成長を見て取れる。

今後の取組(アクションプラン)

数年の課題として「児童は問題文を確実に読み解き理解できているのか」を検証する必要がある。読み書きに関して児童の実態を把握し、指導方法の見直しを図る必要がある。同時に「ブロック化による学校支援事業」により進めている漢字検定、学習ドリル、専門家の招へいを引き続き行う。学力向上サポーターを活用した放課後学習「池島タイム」の内容の充実、児童の学力向上と教員の指導力向上のための校内研究、研修の発展を進める。「思考力・判断力・表現力」の育成を目指したICTの効果的な活用、読書活動の充実とさらなる工夫改善に取り組む。「学びに向かう力・人間性」育成を進めるために、各教科の見方・考え方を働かせた授業づくりを進める。特別の教科道徳の授業改善を進め、問題解決型の道徳、考え議論する道徳の授業を構築する。このような教育活動によって児童の自己有用感を自らが見つけられるように進めていく。

児童質問紙より

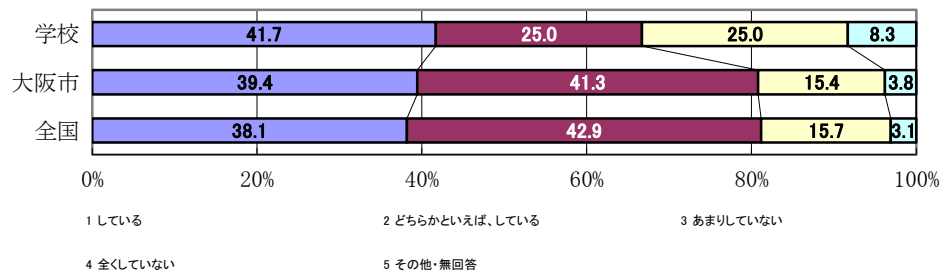
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

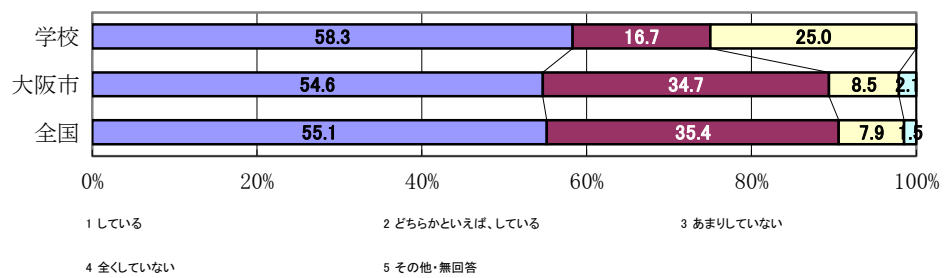
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ている



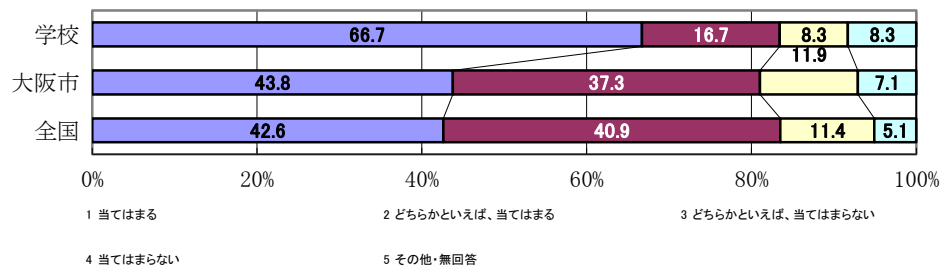
3

毎日、同じくらいの時刻に起きている



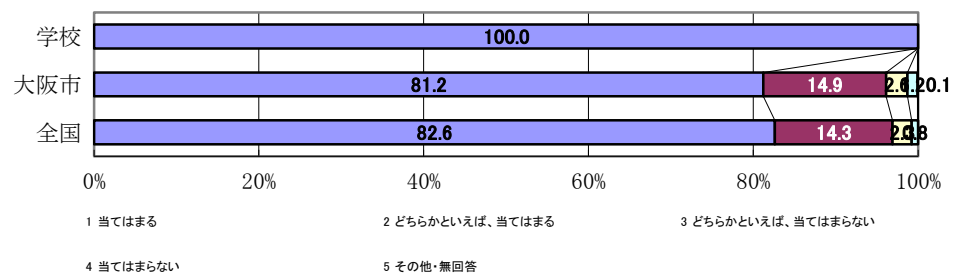
4

自分には、よいところがあると思う



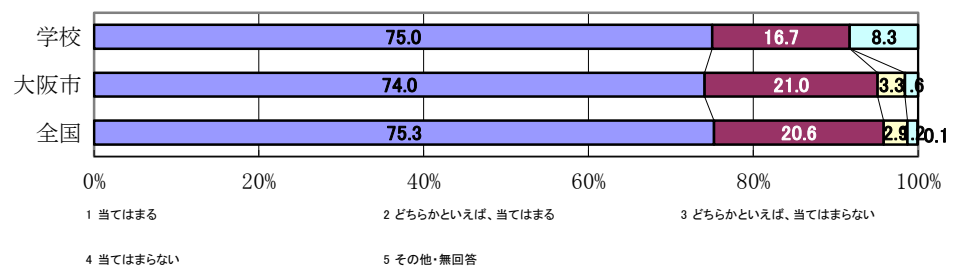
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



11

人の役に立つ人間になりたいと思う



児童質問紙より

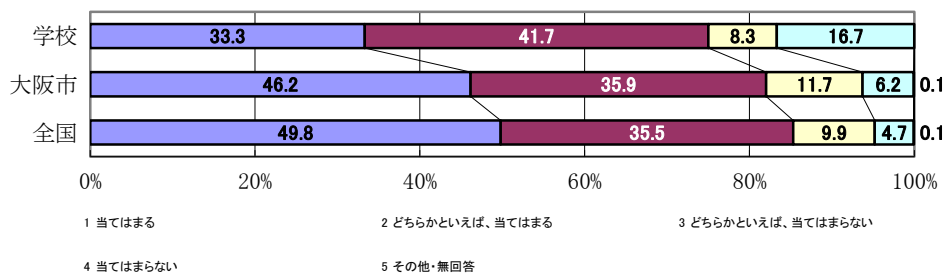
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

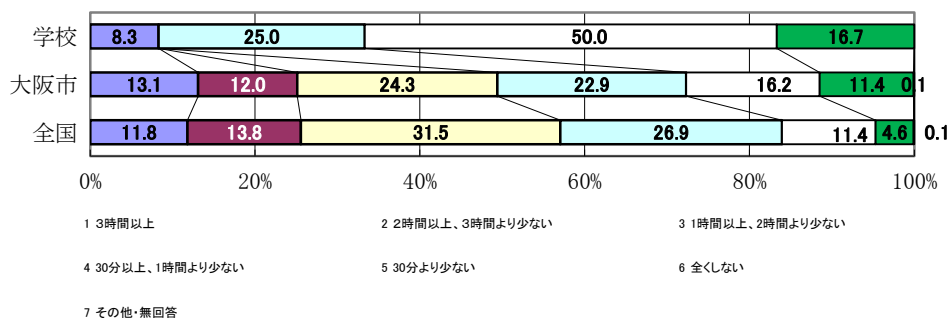
12

学校に行くのは楽しいと思う



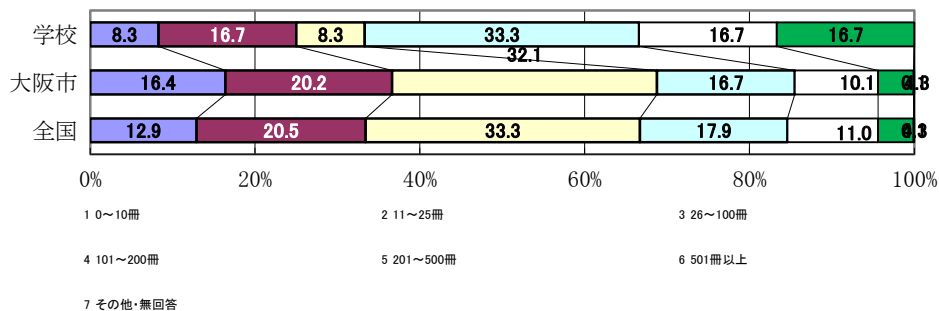
17

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）



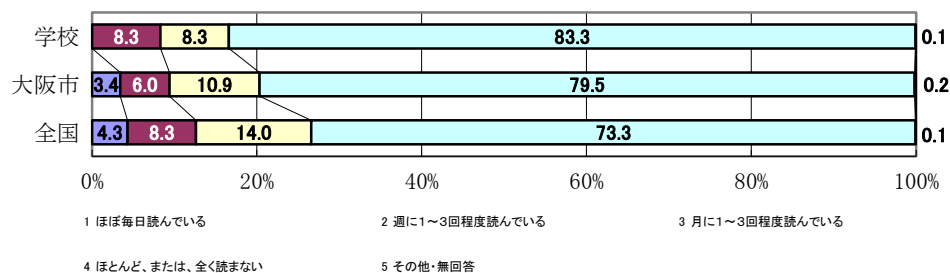
22

あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除きます）



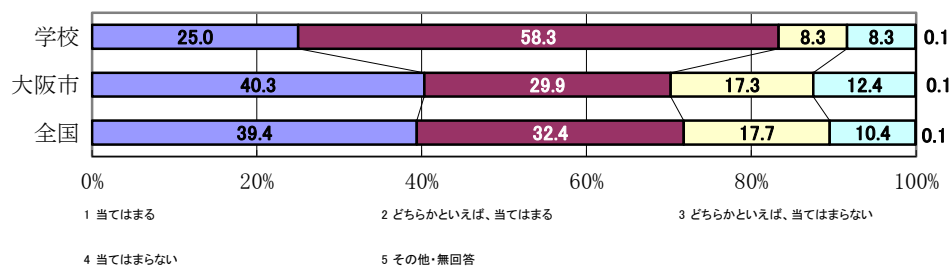
23

新聞を読んでいますか



24

読書は好きですか



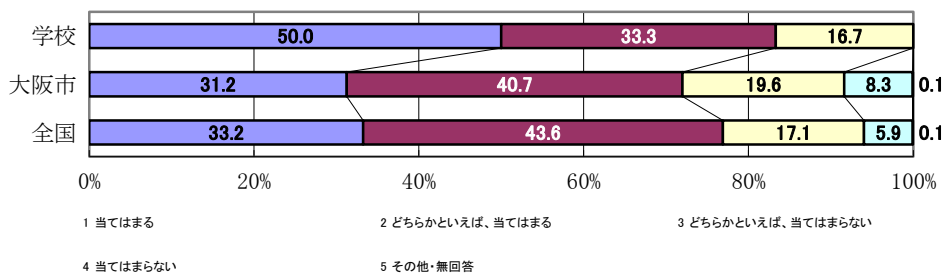
児童質問紙より

質問番号
質問事項

26

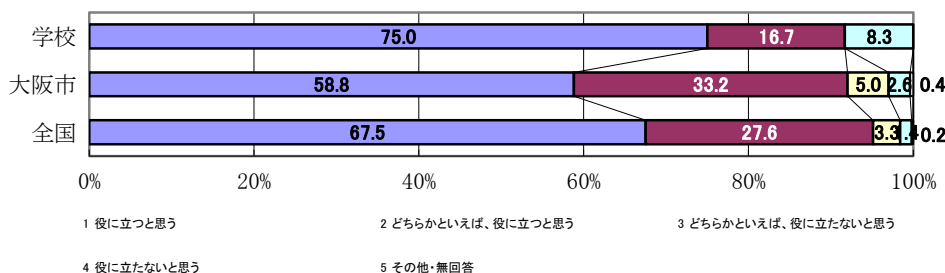
地域や社会をよくするために
何かしてみたいと思う

1 2 3 4 5 6 7 8



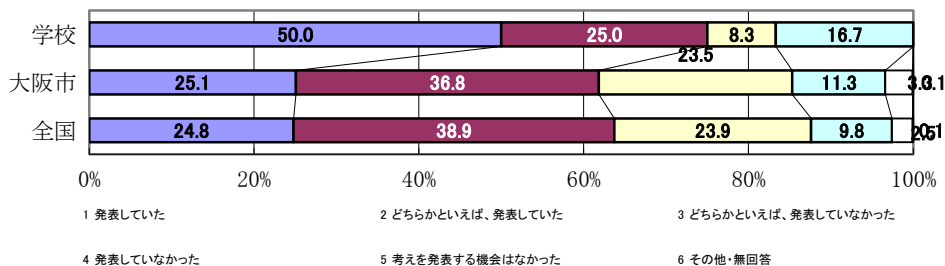
30

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



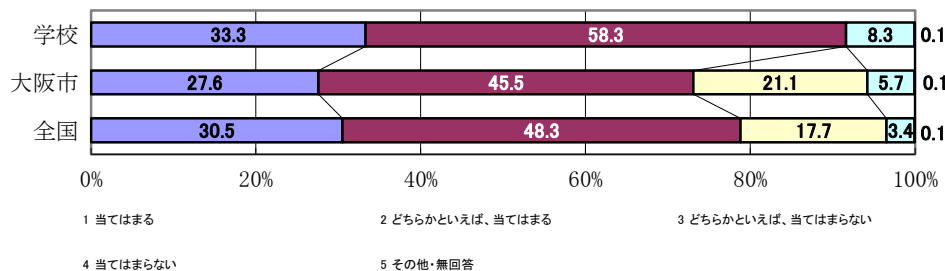
32

(5年生までに受けた)授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



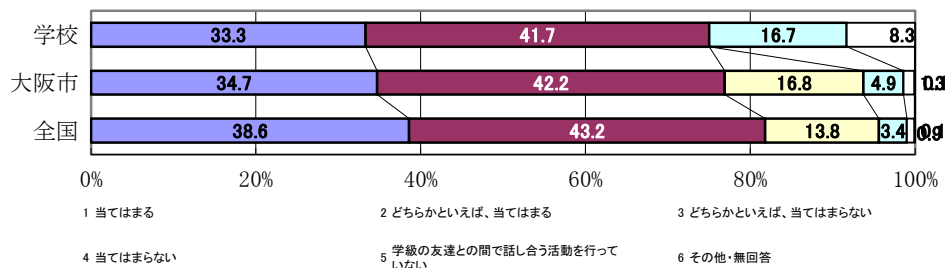
33

(5年生までに受けた)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



36

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

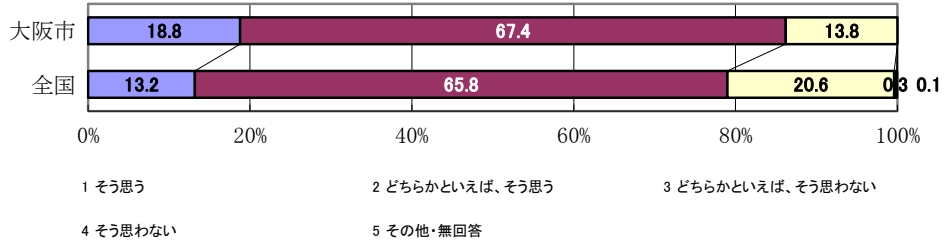
質問番号

質問事項

27

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができています。

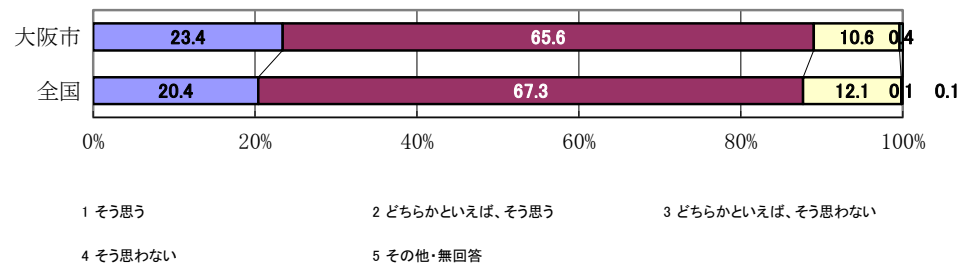
学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができています。

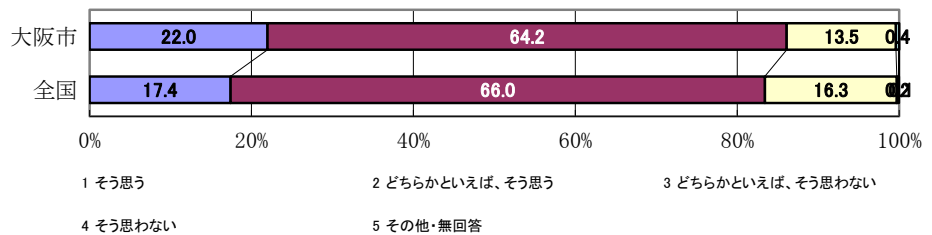
学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



29

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています。

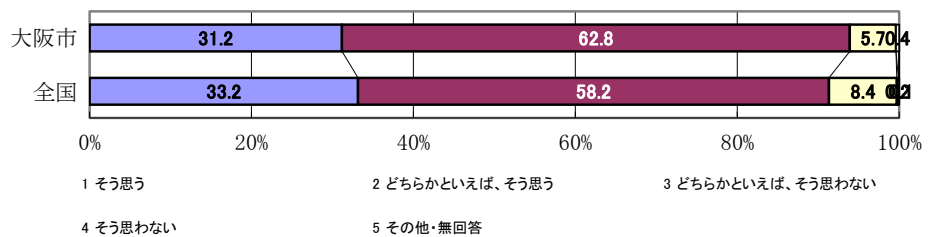
学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



30

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができています。

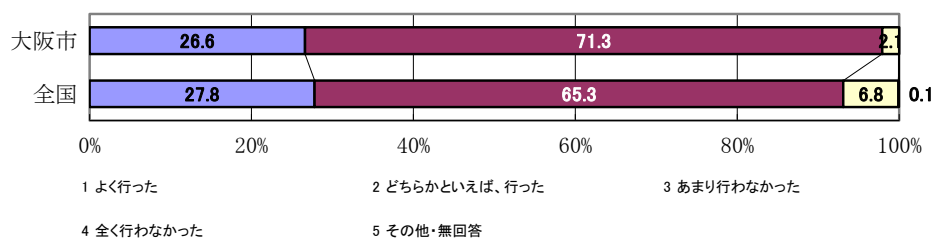
学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫している。

学校「どちらかといえば、行った」を選択



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

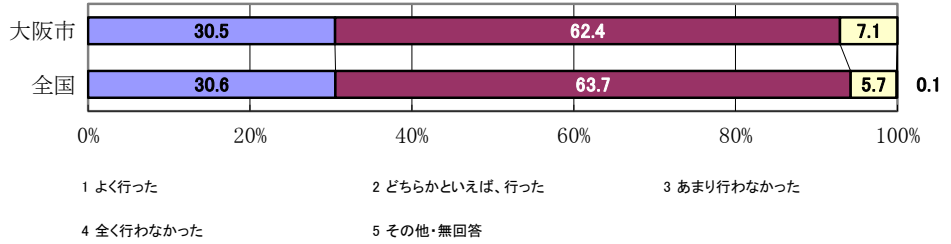
質問番号

質問事項

32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している

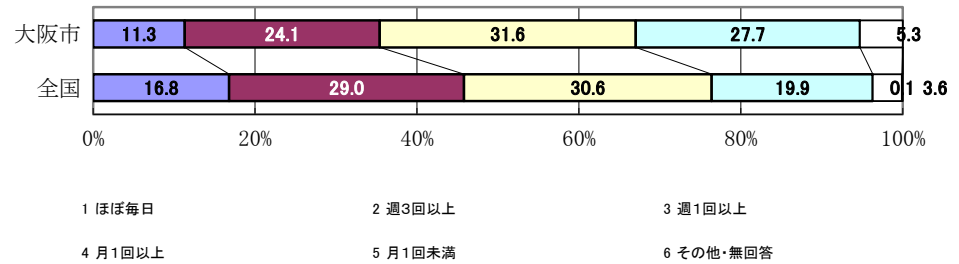
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



57

調査対象である第6学年の児童に対して、児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

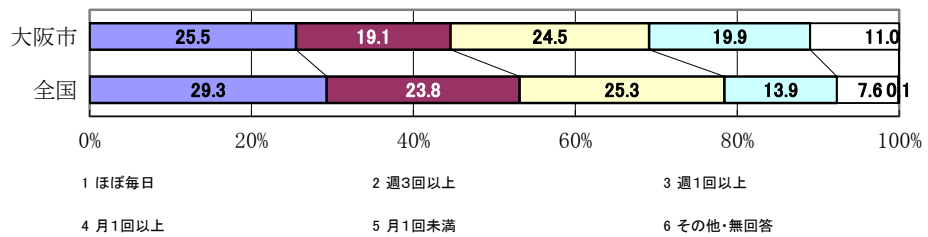
学校 「週3回以上」を選択



58

調査対象である第6学年の児童に対して、教職員と児童がやりとりする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

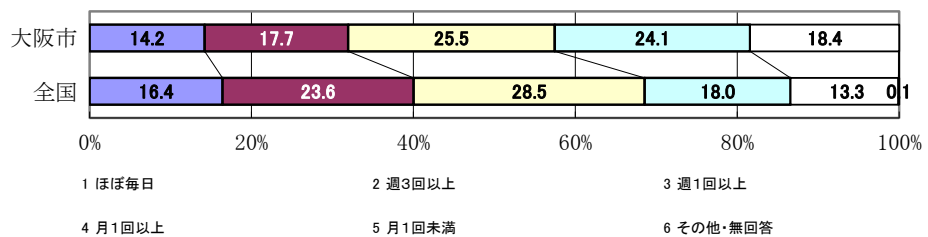
学校 「ほぼ毎日」を選択



59

調査対象である第6学年の児童に対して、児童同士がやりとりする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。

学校 「ほぼ毎日」を選択



60

調査対象である第6学年の児童に対して、児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「ほぼ毎日」を選択

